

第3回 国立天文台光赤外専門委員会 議事録案

日時：2011年3月3日(木) 11時-16時20分 (12時~13時に昼食休憩)

場所：国立天文台(三鷹)大会議室

(ハワイ観測所、岡山観測所、大阪市大、広島大、宇宙研、とTV会議接続)

[出席者]

有本信雄、*家正則、市川伸一(TV)、伊藤洋一、泉浦秀行(TV)、臼田知史(TV)、神田展行(TV)、*郷田直輝、*櫻井隆、嶋作一大、*高見英樹、竹田洋一、*田村元秀、長田哲也、*藤本眞克、松原英雄(TV)、山下卓也、山田亨、吉田道利(TV)

また、宮崎聡(HSCサブプロジェクト長)氏が報告のために出席した。

[欠席者]

小宮山裕、佐藤文衛、*水本好彦

[*]印はEX Officio(陪席するプロジェクト長等)

最初に資料1に基づき11月に行われた第二回本委員会の議事録が確認された。

1. 報告

1-1. すばる小委員会(SAC)報告

有本委員(すばる小委員会委員長)より、資料2に沿って、最近のすばる小委員会で議論されたことや推進した活動内容がまとめて報告された。ハワイ観測所連絡会(すばるボード)の設置、ALMA-Subaru WS、すばる一般向け講演会、装置計画WS、すばるUM、PASJすばる特集号、銀河考古学に関するすばる国際研究集会、装置WGの創設、SEEDSデータ公開期限の特例的延長、など。特に、すばるUMの折にPFS計画がユーザー多数の合意を得られた経緯について説明と議論があった。

1-2. TMT計画の情勢

家TMTプロジェクト室長から資料7に沿ってTMT計画の最近の動向の説明があった。国内情勢(文科省との対応、学術会議では天文宇宙の大型計画としては次期はTMTで意見一致)、TMTボードの報告(NSFの状況[TMTかGMTかの選択決定は2012年初め]、外部委員によるコスト評価、現地許可申請、各国の予算申請見通し)、TMT PDT(Proposal Development Team)ミーティングの報告、台内の対応(概算要求の予定、分割鏡製作、プロジェクト体制)、サイエンスWSと観測装置の計画、など。更に、E-ELT計画やGMT計画ともからんで、他の国の情勢に関して意見交換があった。

1-3. HSC進捗状況

宮崎 HSC サブプロジェクト室長から Hyper Suprime Cam (すばる望遠鏡の主焦点に取り付ける超広視野カメラでこれまでの十倍の視野が得られる)計画の進捗状況がスライドで報告された。カメラ本体は昨年 11 月に全ての仕様を満たして完成し、現在は CCD のテストの段階。コミショニングに向けて本年夏以降にすばるへの搭載テストを行うが安全性に細心の注意を払っているため観測所側との緊密な協力が必要である。データ解析システムの開発も進んでいる。

1-4. TMT 推進小委員会報告

山田委員より、資料 3 に沿って、12 月 28 日に開催された平成 22 年度第 1 回 TMT 推進小委員会に関する報告があった。委員長と幹事が選出され(山田、柏川の両氏)、TMT 計画の現状報告があり、本小委員会の使命、委員会開催の頻度、次回に向けての議題、などが議論された。なお、山田氏から「分割鏡開発に詳しい委員を新たに 1 名増員したい」との申し出があり、議論の結果認められた。(人選の後にメールでの持ち回りで正式承認の運びになる予定。)また、TMT 計画を推進する上での大学の役割、予算獲得に絡む問題、などについて色々議論がなされた。

1-5. 大学間連携について

長田委員より資料 4 に基づき、概算要求を出して今度予算(平成 23 年度から 6 年間)の付いた「大学間連携による光・赤外線研究教育拠点のネットワーク構築：最先端天文学課題の解決に向けた大学間連携共同研究」について、本計画の概要、これまでの二年間にわたるいきさつ、今後の具体的な活動予定、が報告された。

1-6. SPICA 計画の状況

松原委員より資料 5 に沿って、現在プリプロジェクトの段階にある SPICA 計画の最近の動向(望遠鏡、システム要求審査合格、焦点面観測装置の概念設計・審査、欧州の動向と国際協力、今後のスケジュールなど)が報告された。「次の段階に向けては 4 月の宇宙理学委員会が一つの節目になるので、SPICA に期待する天文コミュニティからの積極的なサポートの声明を出してもらえれば嬉しい」、との要望が出され、これについては光赤天連で検討することになった。TMT 計画との関連もあり、国立天文台が SPICA 計画のようなスペースミッションにどのように関わっていくべきか、について(人的交流や技術開発といった観点も含めて)議論がなされた。

1-7. 岡山観測所運営方針に関する報告

泉浦委員より岡山観測所の今後の運営方針(当面確定している平成 26 年までの共同利用の遂行、それ以降についても[大学による運用可能性も視野に入れて]検討)が報告された。各望遠鏡の現状、京大 3.8m 鏡計画との緊密な協力、大学間連携、国際研究協力、マンパワー、など

(資料9 参照)。

1-8. PFS 計画について

高見ハワイ観測所長代理より資料8に基づき、これまで検討を進めてきて先日のすばるUMにおける議論でユーザー多数の賛意が得られたPFS(Prime Focus Spectrograph:すばる主焦点多天体可視域分光装置)計画について観測所の立場からの報告があった。天文台として本計画に実際にゴーサインを出すべきかどうかの最終判断をするために、具体的な開発推進体制や予算の見通しなどについて企画委員会とともに慎重な検討を行っている。またすばるSACはSAC提言の条件が遵守されていくかどうかをチェックしていくことにする。

1-9. Pan-STARRS について

山下委員長より資料6に沿って、ハワイ大学天文学研究所のChambers氏から光赤外研究部主任の水本氏に宛てられた「広域デジタルスカイサーベイのPan-STARRS計画に日本も参加しないか(つまり計画に出資してデータへのアクセス権を得ること)」との呼びかけの書簡が紹介された。とりあえず日本のコミュニティの当計画に対する興味や需要がどの程度あるかを調べるために、光赤天連のMLに情報を流すことになった。

2. 議題

2-1. UH88 日本人時間について

山下委員長より、これまでの本委員会でも議論を行った結果ユーザーコミュニティを代表する光赤天連からからも継続希望を出していた、国立天文台によるハワイ大学2.2m望遠鏡(UH88)の日本人時間買い取りについて、平成23年度についてはこれまでの3年とほぼ同程度の2100万円の予算が認められたことが報告された。ただ従来と異なり、平成23年度はもはやUKIRTが使用できずにUH88だけになるのでこれだけの額は多すぎて使い切れない関係上、「平成23年度は額を半分にしてその替わり平成24年度にも予算を配慮してもらえないか」と財務と交渉してみることにした。いずれにしても2011B期(2011年8月~2012年1月)を中心とした平成23年度分の観測課題公募(3月中の公示で4月中の〆切)は行うことが承認された。

3. その他

次回の第4回光赤外専門委員会は本年7月頃を目処に開催する予定であり、具体的な日程はこれからメンバーの都合を勘案した上で決定する。

4. メールによる議論

岡山天体物理観測所・プログラム小委員会の委員の任期が平成23年3月31日までであったので、第3回の光赤外専門委員会で議論の上、次期の小委員会の委員を選任する必要があった。しかし、その認識がなく今回の専門委員会では議論を行わなかった。そこで、5月19

日よりメールによる議論と承認の手続きを行い、5月23日に光赤外専門委員の過半数の賛成を得て下記の岡山天体物理観測所プログラム小委員を選任した。

前期からの継続

- 川端弘治（広島大学）
- 杉谷光司（名古屋市立大学）
- 野上大作（京都大学）
- 橋本 修（県立ぐんま天文台）

新規

- 伊藤信成（三重大学）
- 関口朋彦（北海道教育大学・旭川）
- 深川美里（大阪大学）

配付資料

1. 第二回光赤外専門委員会議事録案
2. SAC 報告
3. 平成 22 年度第 1 回 TMT 推進小委員会議事録(案)
4. 大学間連携についての報告
5. SPICA の現状
6. Pan-STARRS Telescope#1 and the PS1 Science Consortium
7. TMT プロジェクト情勢報告
8. PFS 報告
9. 岡山天体物理観測所運営方針（事後配布の資料）